

I 初任者に求められるもの

新たな「徳島教育大綱」（令和6年3月策定）は、本県における教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について、その目標や施策の根本となる方針を定めたものである。「徳島教育大綱」では、個性と国際性に富み、大きな夢や高い目標を持って、自らの可能性を高め、主体的に未来を切り拓くために果敢に挑戦する力を育む「徳島ならではの」教育により、本県の宝である「人財」の育成を目指している。

徳島教育大綱の基本方針

個性と国際性に富み、夢と志あふれる「人財」の育成

徳島教育大綱で求められる「人財」の具体像として、次の①～③が示されている。

- ① 夢と希望を持って、国際性を身に付け、自らの可能性を伸ばし、個性を發揮しながら、未来を切り拓くために「果敢に挑戦する人財」
- ② 人と人、人と地域のつながりを大切にし、他者への共感や思いやりを持って、多様な価値観を持つ人々とともに輝き、「新たな価値を共創する人財」
- ③ 郷土への愛や誇りを持ち、未来社会の創り手として、主体的に考え、意欲的に学び続けながら、「地域のために行動する人財」

また、「徳島教育大綱」においては、次の六つの重点項目が示されている。

重点項目Ⅰ 未来を拓く力を育む教育の推進

持続可能な社会の創り手として、世界の人たちと交流し、新しい価値を創造することができる人財を育成するため、最先端のデジタル環境による教育DXの実践、世界とつながり国際社会の一員として活躍できる自律したグローバル人財の育成に向けた取組の充実など、未来を拓く力を育む教育を推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

全ての児童生徒が、自分の良さや可能性を認識し、持続可能な社会の維持・発展に向け、「主体性」、「創造力」、「論理的思考力」等の資質・能力を開花させています。

重点項目Ⅱ 個性を活かし、確かな学びを育む教育の推進

主体性を持って、自らの個性を發揮した豊かな人生を切り拓いていく人財を育成するため、多様な体験活動や他者との協働・課題解決型学習の展開、教育関係機関や社会との連携、学校の特色化・魅力化、キャリア教育の充実など、自分で考えて行動することができる力を育み、心身共に健康で幸福な生活を営むことができる資質・能力を伸長する教育を推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

学校と社会の連携・接続が図られ、グローバル化する社会問題に柔軟に対応し、全ての児童生徒が、確かな学力と主体的に社会の形成に参画する態度を身に付けています。

重点項目Ⅲ 全ての人の可能性を引き出し、多様性を育む教育の推進

誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出し、誰もが輝ける共生社会を実現するため、「ポジティブ行動支援」の更なる展開、いじめ・不登校に適切に対応できる教育相談体制や多様化する学習ニーズに対応した教育の充実など、「ダイバーシティとくしま」の実現に向けた多様性を育む教育を推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

多様性を認め合う教育の充実により、全ての児童生徒が、社会の中でそれぞれの役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しています。

※ポジティブ行動支援：障がいの有無に関わらず、望ましい行動を効果的に教え、その行動ができた際に賞賛や承認をすることにより、すべての児童生徒が主体的に適切な行動を学ぶ教育方法のこと。

重点項目Ⅳ 人生100年時代のマルチステージで輝く教育の推進

自己肯定感を高め、他者を認め合い、多様な個人それぞれが幸せと生きがいを感じるウェルビーイングを向上させていく社会の実現に向けて、誰もが学びやすい環境の整備、生涯にわたり自己実現や地域社会への貢献につながる学習機会の充実など、生涯学び、活躍できる環境づくりを推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

全ての児童生徒が健やかに成長できる環境と、生涯にわたり新たな知識やスキルを身に付ける環境が保障され、多様な人々が、社会の中でいきいきと活躍しています。

重点項目Ⅴ 地域・家庭・学校が連携し、協働する教育の推進

「社会に開かれた教育課程」を通じて魅力あふれる社会をつくるため、地域・家庭・学校の連携・協働による地域コミュニティの教育機能の充実・強化や、地域の担い手育成を図るとともに、教育人材の確保や教員の働き方改革を実現し、持続可能な「地域ならではの」教育活動を推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

「地域とともにある学校」による地域総ぐるみでの連携・協働が図られ、全ての児童生徒が、地域コミュニティの中で共感的・協調的な関係を築いています。

重点項目Ⅵ 文化・スポーツが躍動する教育の推進

優れた才能や個性を発揮し、躍動する人財を育成するため、藍染や阿波おどりといった伝統文化や様々なスポーツに親しむ環境を充実させるとともに、徳島が誇る歴史や風土で育まれた「あわ文化」の継承や魅力の発信、トップアスリートの発掘・育成など、文化・スポーツレガシーを継承する教育を推進します。

～10年程度先の将来ビジョン～

全ての児童生徒が、徳島の歴史やあわ文化への理解を深め、スポーツを通じた価値を享受でき、活力にあふれ、「ふるさと徳島」への誇りと愛着を抱いています。

本県教育の目指すところをしっかりと把握し、学校教育現場において、その実現に向けてまい進することが求められる。

また、「とくしま教員育成指標」は、現在身に付けている資質・能力を把握するとともに主体的・自覚的に資質・能力の向上に向けた目標を設定し、自己研鑽を図るための具体的な指標として活用できる。（「とくしま教員育成指標」については、3～9頁参照のこと）

グローバル化、情報化、そして働き方改革が進む現在、学校教育を取り巻く諸状況は刻々と変化し、予測困難な状況への対応が課題となっている。一方で、教師に対する保護者や地域社会の期待は大きく、様々な要望が寄せられる。そうした中で、児童生徒の前に立つ教師自らが、生涯にわたって学び続ける姿勢をもち、常に自己を高めていく研修を積み重ねていくことが求められている。教師としての重責を十分に自覚し、初任者としてもてる力と情熱を、教育界に吹き込んでくれることを期待している。

1 初任者だという甘えをもたない

教師は初任者であっても、児童生徒の前に立てば、たちまち「私たちの先生」である。経験豊富な教師と同じ職責を果たさなければならない。やりがいもあるが、責任も重い。さらに、教師の仕事は、児童生徒一人一人異なる人格の形成に直接関わるがゆえに厳しく、教師としての資質・能力の向上が絶えず問われ続ける。児童生徒や保護者の思いを受け止め、その期待に応えていくためには、初任者だという甘えをもつことなく、事に当たる必要がある。

2 教育的愛情と情熱をもって

教育に携わる者は、児童生徒の限りない成長と発達を願い、そこに喜びを覚える教育的な愛情が必要である。教師は児童生徒に無償の愛情をもって接する。その愛情は、受容であり信頼である。さらに、教師と児童生徒は、互いに敬愛の絆で結ばれていなくてはならない。児童生徒は愛されることにより心を開く。共に汗を流し、苦楽を共に分け合い、涙を流す教師、心の中に生涯にわたって生き続ける教師でありたいものである。教育に対する情熱はあらゆる教育活動の基盤であり、教師としての成長を促す原動力である。

3 学び続ける教師の姿

我が国では、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、その姿を、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」と定義している。その際の教師の理想的な姿として、教師が技術の発達や新たなニーズなど学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて探究心を持ちつつ自律的かつ継続的に新しい知識・技能を学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割が求められている。主体的に学び続ける教師の姿は、児童生徒にとっても重要なロールモデルとなる。

4 教師である前に、常識ある社会人であれ

教師は児童生徒や保護者から「先生、先生」と呼ばれ、自信過剰になったり、自分を絶対視したり、視野が狭くなったりしがちである。その結果、児童生徒の前で傲慢になったり、保護者に対しても社会的マナーに欠けた言動が見られたりするおそれがある。また、「これぐらい大丈夫だろう」という軽率な判断が、その職の信用を傷つけ、又は教育会全体の不名誉となるような行為につながる危険性がある。常識ある社会人として、「当たり前のことを、当たり前に行える」「社会の目線にかなう言動をとる」ことなどが求められる。一人一人が今以上にコンプライアンスの意識を高め、社会規範やルール、マナーについても率先して遵守しなければならない。これを欠いてしまつては、教師ではあり得ないことを心すべきである。